

令和5年度  
岡山市文化芸術推進会議における主な意見

1 日 時 令和6年2月6日(火) 10時00分から11時35分まで

2 場 所 岡山市役所本庁舎 7階大会議室

3 出席者 委員 8名

4 傍 聴 なし

5 議 題

- (1) 令和4年度事業報告
- (2) 令和5年度主要事業について
- (3) 令和6年度予算について
- (4) その他

6 主な意見等

○令和5・6年度の主要事業である文学によるまちづくり推進事業について

(委 員) ユネスコ創造都市ネットワークの文学分野53都市について、ネットワークを実際に動かしたり、全体的な動きがあったり、そういったことがあるのか。それとも各都市が個別に活動して、機能していくのか

(事務局) 全体については、ユネスコの事務局があり、岡山市は来年度ポルトガルのフラガである全体会議に出席予定。文学分野については、53都市のうち数都市が幹事都市として連絡調整に当たっている。また、先輩都市が新人都市とペアとなる「シティフレンド」という仕組みがあり、岡山市のように新しく加入した都市に対しては、先輩都市が世話をしてくれる。岡山市のペアはニュージーランドのダニーデンに決定し、すでに熱いメッセージをいただいている。各都市の事業についても、メーリングリストによる活発な情報交換をしており、これからの市民への情報発信の在り方を検討しているところ。

(委 員) この事業への姿勢や構成などについて、全体的に示されているものがあるか。

(事務局) 今後の文学の取組については、まだ手探り状態のものであり、国際会議の開催等も視野に入れているものの、具体的なものはなっていない。CCNJ (Creative City Network of Japan: 創造都市ネットワーク日本) から、岡山市が幹事都市として活動しないかと提案もされている。国内の様々な分野の創造都市からも情報収集しながら、今後の事業の組み立てを検討していきたい。

○岡山市の文化施設について

(委員) 岡山芸術創造劇場ハレノワが開館し、3月31日に岡山市民会館と市民文化ホールが閉館する。現状は大変充実している期間。ハレノワ大劇場が市民会館の、ハレノワ中劇場が市民文化ホールの、それぞれ代替機能の役割を果たしている。ハレノワは演劇・オペラなど舞台芸術の公演を中心に検討されており、その面ではすばらしい。ただし、クラシック音楽関係者からは、音響がもう少し弱いのではないかという意見をいただいている。岡山フィルハーモニック管弦楽団は岡山シンフォニーホールを中心に活動しているが、大規模改修で使用できない期間はどうか。

(事務局) ハレノワを中心に、県内の各施設を含めて調整し、ファン層拡大等にも努めていく。

(委員) 県内のみならず、全国に岡山フィルハーモニック管弦楽団のファンを拡大する機会にしてほしい。

(委員) ハレノワの大劇場に音響反射板が設置されなかった理由や経緯がわかれば教えていただきたい。

(委員) 音響反射板がなければ、生の音だけでは大劇場の空間は難しい面がある。

(委員) ハレノワは演劇に特化している。オーケストラは岡山シンフォニーホールがあるからいいのではないか、という考え方があったのではないか。

(事務局) 最近のオペラは音響反射板を必ずしも必要としないという考え方があり、とも聞いている。ハレノワと岡山シンフォニーホール、それぞれの役割分担を重視して検討した結果が現状となっている。岡山シンフォニーホールの大規模改修期間については不都合が生じるが、ご了承いただきたい。

(委員) みなさんもっといい施設にしたいという思いがそれぞれにあるようだ。

(委員) 大規模改修について、建築資材の高騰や人手不足の状況の中、タイミング的にはここまで待ったということか。

(委員) ハレノワ完成まで我慢したのだろう。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 計画変更を余儀なくされるようなことのないように。

(事務局) 現在基本設計中だが、実施設計に入った段階で、実現可能なものとなるようゼネコンの意見を反映させた計画策定を予定している。国の支援（公共施設等適正管理推進事業債）を活用するため、改修時期が限られているという制約もある。

(委員) 岡山市民会館は3月31日に閉館。その後の計画はどうなっているのか。解体するのか

(事務局) 来年度、解体工事の予算要求をしており、秋以降に現場が動き出す予定。

(委員) 跡地は更地になるのか。

(事務局) 跡地利用については、現在協議されているところ。それらを踏まえて関係部局と調整しながら進めていくことになる。

(委員) 岡山芸術創造劇場の管理運営にかかる経費が、令和5年度から令和6年度にかけて大幅な減額となっているが、特殊な理由があるのか。

(事務局) 劇場が整備され、令和5年度には開館事業を実施した。令和6年度も1周年事業等を検討しているが、減額については開館事業が大きな要因である。

(委員) 恒常的な管理運営費のイメージとしては、令和6年度程度が基準となるのか。

(事務局) そう考えている。

#### ○今後の文化芸術事業について

(委員) おかやまアーツフェスティバルの課題について、事務局で把握しているものがあれば教えてほしい。

(事務局) 企画提案事業については、広く活用していただき市民の文化芸術活動を支援することができた。ただし、市域全体を盛り上げていく事業にもかかわらず、周辺部の集客が伸び悩んだ。PR不足もあったかもしれないが、中心部に比べどうしても集客力が弱いところがあり、反省点。周辺部における事業にも今後注力していきたい。

(委員) アーツフェスティバルと言いながら、音楽祭の流れも引き継いでいるので、どうしても音楽が中心になっているという現状がある。ハレノワが演劇のホームであったり、文学の動きであったり、岡山市では非常に新しい動きがある。今後、アーツフェスティバルが、演劇、文学、音楽、そういったものを繋ぐような役割を担って動いていけばよいと思う。文学といっても、戯曲など音楽の要素も多い。気運を醸成していく媒体になってほしい。

(委員) ハレノワができて岡山市が文化芸術に注力していこうとしているときに、幼児や小学校低学年の層に様々な体験する機会を、教育委員会とも組んで何かできないか。共働きの多い現状では、家庭内のみでの対応が困難なので、校外学習などを活用して体験する機会の創出を期待したい。小さいときに体験した感覚は、将来よみがえり、自分たちにかえってくる。せっきゃくこれだけの施設が整備され、これだけのイベントが開催されているので、そこに参加させる手立てがとても重要になる。ぜひお願いしたい。